

分担研究報告書

地域包括ケアにおける医療連携と機能分化に資するがん患者・家族への意思決定支援に関する研究

研究分担者 筑波大学 医学医療系 濱野淳

研究要旨

がん患者の意思決定支援において、診療所医師との連携が重要であることは指摘されているが、診療所外来において、診療所医師、患者、家族がどのような Advance care planning discussion を行っているかは明らかになっていない。

本研究で、我が国の診療所外来において、がん患者が定期的に通院している頻度は、多くないこと、そして、診療所外来では、65 歳以上の患者の 20.7%が、診療所医師と少なくとも1つの事柄について Advance care planning discussion を行っていることが明らかになった。

これらの結果より、地域包括ケアにおけるがん患者・家族への意思決定支援を推進するにあたって、今後は、がん患者が定期通院している地域の中小病院において、患者と主治医の間で行われている Advance care planning discussion の実態を明らかにすることが必要と考えられた。

A. 研究目的

診療所医師が患者・家族と行っている Advance care planning discussion の実態を明らかにする

思決定者について の3点について話し合っているか、そして、診療録に記載されているかを確認し、調査票に記載した。

(倫理面への配慮)

筑波大学医の倫理委員会で審査し承認された後に、各施設で調査を実施していること、および、調査への協力を拒否することができることを掲示した上で、調査を実施した。調査データは、個人が同定できない状態で、研究代表者(濱野淳)が筑波大学内で管理した。

B. 研究方法

全国17か所の診療所に勤務する22名の医師が定期的に診察する65歳以上の患者を対象として、診療録に記載してある Advance care planning discussion を調査した。各診療所において、2017年3月に調査日(1日)を予め設定してもらい、その日に受診した患者を対象とした。対象患者において、年齢、性別、基礎疾患、併存疾患、生活状況などの情報を医師が調査票に記載した。医師は、対象患者の診療録および医師の記憶から、患者および家族と Advance care planning discussion として、
1. 今後ADLが低下したときのこと
2. 経口摂取ができなくなったときのこと
3. 代理意

C. 研究結果

解析対象患者は382名(女性241名:63.1%)、平均年齢77.4 ± 7.9歳であった。主な基礎疾患としては、高血圧(31.9%)、認知症・フレイル(15.2%)、心血管系疾患(9.2%)、糖尿病(7.9%)、脂質異常症(5.0%)、神経系疾患(4.7%)、がん疾患(3.7%)であった。382名のうち、79

名（20.7%）の患者が、医師と少なくとも1つの事柄について話し合っていることが明らかになった。また、家族とも話し合い、その結果が診療録に記載されていたのは、23名（6.0%）であった。

D. 考察

我が国の診療所外来において、がん患者が定期的に通院している頻度は多くないこと、そして、診療所外来では、65歳以上の患者の約20%が、診療所医師と少なくとも1つの事柄について Advance care planning discussion を行っていることが明らかになった。

オランダ、ベルギーで行われた調査では、診療所に通院している患者のうち、予期せぬ死亡ではなかった患者において、34.2%の患者が亡くなるまでに、診療所医師と Advance care planning discussion を行っていたことが報告されている。本研究結果と比較すると、診療所外来で Advance care planning discussion が行われている頻度が少ない可能性が示唆されるが、我が国では、国民がかかりつけ医を持つことが制度化されていないことも Advance care planning discussion の頻度が少ないことの要因となっている可能性がある。

我が国では、地域の中小病院が主治医機能を担っている場合も少なくないと考えられるため、今後は、がん患者が定期通院している地域の中小病院において、患者と主治医の間で行われている Advance care planning discussion の実態を明らかにすることが必要と考えられる。

E. 結論

診療所外来に定期通院する65歳以上の患者において、約20%の患者は、主治医と少なくとも1つの事柄について、Advance care planning discussion を行っているが、家族も含めて話し合い、その結果が診療録に記載されている患者の割合は6.0%であった。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表
なし

2. 学会発表
なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許の取得
なし

2. 実用新案登録
なし

3. その他